

望湖楼醉书（蘇軾）

黒雲翻墨未遮山 白雨跳珠亂入船
卷地風來忽吹散 望湖樓下水如天

解説 西湖のほとりにある望湖楼の上から見た西湖の驟雨のさまを詠じた詩。

黒雲 墨を 翻して 未だ 山を 遮らず

語釈 ※望湖楼 杭州の西湖のほとりにある楼の名。

白雨 珠を 跳らして 乱れて 船に 入る

※翻墨 墨汁をこぼしたように。 ※未遮山 まだ黒雲が山をおおい隠さない。 ※白雨 夕立ち、にわか雨。 ※跳珠 大粒の雨の船板をたたくようすが、真珠のたまがとびはねているようであるということ。 ※水如天 西湖の水が空の色と一つになっている。西湖の晴れわたった後の景をいつている。

地を 巻き 風 来つて 忽ち 吹き 散ず

通釈 黒い雲がまるで墨汁をこぼしたかのように大空に広がっ

望湖 楼下 水 天の 如し

てくるが、その黒い雲がまだ山をおおい隠さない内に、もう大粒の夕立ちの雨が真珠の玉をはねちらすが如く、ばらばらと激しく降って船板を打つ。と、たちまち強風が大地を巻き上げんばかりに吹き出して、雲や雨を散らし、やがて望湖楼下の水は空の色と一つになって、青々と澄みわたる。